

## 船舶事故調査報告書

平成25年4月18日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）

委員 庄司 邦昭

委員 根本 美奈

事故種類	転覆
発生日時	平成24年11月27日 08時30分ごろ
発生場所	神奈川県逗子市逗子海岸沖 神奈川県葉山町所在の葉山港A防波堤灯台から真方位012°930m付近 (概位 北緯35°17.6′ 東経139°34.0′)
事故調査の経過	平成24年11月28日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第二彦丸 <sup>ひこ</sup> 、1.27トン KN3-11989（漁船登録番号）、個人所有 6.60m(Lr)×1.33m×0.66m、FRP ディーゼル機関、4kW（動力漁船登録票による）、昭和57年5月7日
乗組員等に関する情報	船長 男性 65歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成15年11月4日 免許証交付日 平成20年1月17日 (平成25年11月3日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	スパンカー折損、主機関水没により濡損
事故の経過	本船は、船長ほか甲板員1人が乗り組み、平成24年11月27日07時50分ごろ、3日前に仕掛けたたこ籠漁のたこ籠を揚収するため逗子海岸沖の漁場に到着した。 本船は、たこ籠を仕掛けた方向（北西）に船首を向けて停船し、左舷から波を受ける状況であった。 船長は、揚収状況を確認しながら本船船尾部で操船し、甲板員が、船首部左舷側から、1連（約100m）に9個のたこ籠が固定されている縄を手で揚収していた。 船長は、08時10分ごろ、波が高くなってきたことから不安を感じて帰ろうかと考えていたが、揚収の途中であり、もう少しと思って作業を続け、3連目の縄のたこ籠3個を揚収したところ、左舷方約5

	<p>m先から本船に向かって来る波高2.5mほどの巻き波（頂きが前方へ向かって不安定なアーチを張出し、その中に空気を抱き込みながら崩れ落ちる波）を視認した。</p> <p>船長は、その波が、初めて見るような大波だったことから、危険を感じ、船首を波に向けようとして舵を取ったが、本船は、左舷正横寄りから同波を受け、08時30分ごろ右舷側に転覆した。</p> <p>船長及び甲板員は、海に投げ出されたのち、船底を上にして転覆している本船のプロペラシャフトにつかまり、漂流していたところを数人のサーファーに救助された。</p> <p>本船は、サーファー達に引き起こされて逗子海岸近くまで運ばれ、ボート保管施設のフォークリフトで砂浜に引き揚げられた。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：波高 約2m、潮汐 下げ潮の末期</p>
その他の事項	<p>船長及び甲板員は、救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>たこ籠は、仕掛けてから2日後に揚収する予定であったが、船長の都合で出漁していなかったことから、本事故当時、仕掛けてから3日経過しており、船長は、少しでも早く漁場に行こうと考えていた。</p> <p>船長は、航行中、波高約1.5mの波があったので、浅瀬では大きな波になると思い、いつもより少し沖を通過して漁場に向かった。</p> <p>船長は、漁場に向かう際の波が、白波のない傾斜の緩やかな波であったので、経験から漁をするには問題ないと考えていた。</p> <p>船長は、いつもラジオから気象情報を入手しているが、本事故当日、気象情報を入手していなかった。</p> <p>逗子海岸付近に所在するサーフショップの店員は、本船の転覆場所では、通常、余り大きな波が発生することはなく、本事故発生時、沖からの波と下げ潮がぶつかって大きな波が発生したように思った。</p> <p>本事故発生場所の水深は、約2.5mであった。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、逗子海岸沖で停船してたこ籠の揚収中、左舷正横寄りから巻き波を受けたことから、右舷側に転覆したものと考えられる。</p> <p>船長は、海象が悪化して不安を感じたが、たこ籠の揚収の途中であったことから、揚収作業を続けたものと考えられる。</p> <p>船長は、気象情報を確認しておらず、天気も良く風も穏やかであったことから、出港したものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、逗子海岸沖で停船してたこ籠の揚収中、左舷正横寄りから巻き波を受けたため、右舷側に転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>

<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 出港前に、気象情報を入手しておくこと。</li><li>・ 操業中、天候に少しでも不安を感じたら、ためらわずに操業を中止して帰港すること。</li><li>・ 救命胴衣を着用すること。</li></ul>
-----------	--